

布施のクイズ

こんにちは、ナビゲーターの金子です。

ここ数回、布施のお話でしたが、僕が見聞きしたあるお話をさせていただきます。

仏教の研究者であり伝道師としてご活躍された、ひろさちや氏の仏教講演会でのクイズ的な問題の提起です。お付き合いください。

「二人兄弟の家で、兄が友達からケーキを1個貰ってきました。家には弟がいますが、このときにどうしますか？」という問題です。解答の選択肢は以下の3つ

- ・A 半分こする
- ・B 一人が食べて、一人は食べない
- ・C 二人とも食べない

このように出題すれば、圧倒的多数がAを選ぶでしょう。当然の答えのように思いますが、仏教の考え方はどうでしょうか。

二人に一個しかないパンを、二人で半分こして仲良く食べる。すなわちAが仏教の考えだと思われそうですが、じつは仏教は、むしろCの「二人とも食べない」を正解にします。なぜでしょうか？

お兄ちゃんがもらってきた一個のケーキを、母親が半分こして二人に食べさせていたとき、兄弟に「お母さんはなぜ”半分こにしなさい”と言ったと思う？」と聞くと、お兄ちゃんは「弟がかawaiiそうだから」と答えます。

弟は「この次、僕がもらってきたとき、お兄ちゃんに半分あげるから」と答えました。

普通の問答のようですが、仏様の目から見れば違います。

ケーキを半分ずつにするのは一見、布施の思想ですが、弟がかawaiiそうだから恵んでやるというのは本当の布施ではありません。その考えでいると、弟とケンカしているときは弟に半分をあげることはできないでしょう。また、お返しを期待して施しをするのも本当の布施ではありません。

「半分こにするのは、半分こにして食べた方が、ケーキがおいしく食べられるからだ」と、これが布施の思想です。「オレがおまえに恵んでやるからオレに感謝しろ」と、そんな気持ちで半分こしたケーキはおいしくありません。もらう方も、ときには「それならお前が一人で食べ。その代わり、オレが貰って来ても、絶対におまえにはやらない」と言いたくなります。

そうではなくて、施すほうが、「二人で一緒に食べたほうがおいしくなる。どうか私と一緒に食べてほしい」といった気持ちで半分こし「一緒に食べてくれてありがとう」となる
とき、これが本当の布施です。

仏教はCの「二人とも食べない」を正解にすると言いましたが、その一個のパンを捨てて
しまうではありません。

もらってきたケーキを、まずそれを仏壇に供えるのです。そうすると、そのケーキは仏様
のものとなり、お兄ちゃんの所有権はなくなります。そして兄弟は、そのケーキを仏様から
頂くのです。

いったん所有権を放棄することは、兄が弟に半分やって二人と一緒に食べるのではなく、
二人とも食べないこととなります。その後で、仏様から頂くのです。

兄が弟にやるのであれば、弟は兄に御礼を言わねばなりません、仏様のものを頂くので
あれば、二人がそろって仏様に御礼を言うこととなります。これが本当の布施だと思いま
す。

昔は、外でもらった物をすべて仏壇にお供えしました。会社員は給料を仏壇に供える、そ
うするとそれは仏様のものになります。その背後には、すべてのものは仏のものだ、とい
った考えがあります。自分が稼いだ金、といった意識を捨てて、生活費はすべて仏から頂
いたものだとして認識するための行為です。

一個のパンを半分こして人に与えること、これは利他行です。他人の利益のためにする行
為です。同時に、仏への感謝の気持ちが涵養され、ゆったりとした気持ちになる、そうい
う自利が得られます。本当の布施は自利利他の行為とも言えます。